

飛鳥資料館のアンケート結果による展示評価の試み

はじめに 飛鳥資料館では、2015年10月9日（金）から11月29日（日）の59日間、開館40周年記念秋期特別展「キトラ古墳と天の科学」を開催した（文化庁、奈文研主催、朝日新聞社共催、NHK特別協力）。本特別展では、今までよりも詳細な情報を来館者から集められるよう来館者アンケートの質問内容を改良した。本稿では、そこから得られたデータを分析することで、今後の展示への参考材料としたい。

アンケート実施の概要 本特別展の総入館者数12,862人に対し、アンケートの配布枚数は5,773枚で、回収枚数は2,629枚、回収率は45.5%だった。総入館者数とアンケート配布枚数に開きがあるが、これは主に閉館時間間際の来館者、団体客には配布しなかったためである。小中高校生の団体を含めた団体客は、滞在時間に限りがあるためアンケート記入に消極的であったり、回収率が低かったりするが、今後はより多くの人の意見を集めるために団体の来館者にも協力してもらえような取り組みをおこなうと同時に、全体の回収率を上げる努力もしていきたい。

アンケートの改良 従来のアンケートをもとに、2つの変更をおこなった。①これまでは「特別展を何・どこで知ったか？」という質問に対して、こちらが挙げた「ポスター」「文化施設」など具体的な場所にチェックしてもらったが、今回からはそれに加え、ポスターとチラシを見た人は、それを見た場所も一緒に回答できるようにした。②展示評価に関する質問は総合評価のみだったが、今回から特別展のコーナーの中でも「よかったと思うコーナー」にチェックを入れてもらう回答欄を設けた。

特別展の宣伝効果 アンケート結果より、多くの来館者が本特別展の開催を知った上で来館しているということがわかった。また、特別展を知った場所に関する質問で、「来館してから（特別展の開催を）知った」という回答者の割合が、わずか9.4%であった。この数値は、同じ質問で平成26年春期・秋期、平成27年春期特別展の平均が58.6%であったことを考えると本特別展では告知が効果的におこなわれたことが考えられる。また、今回の



図7 展示会場内でのギャラリートークの様子

アンケートでは同じ特別展を知った場所の回答欄に、より詳細な場所をチェックしてもらう項目を設けたことにより、来館者がどのような場所で特別展について知る機会があるのかということがあきらかになった。

割合が高かった上位5つは、新聞・テレビ・雑誌13.5%、ポスター（明日香村の観光地）8.9%、ポスター（博物館・美術館）7.9%、チラシ（博物館・美術館）6.1%、チラシ（明日香村の観光地）5.3%であった。新聞・テレビ・雑誌が高い割合を占めていたのは、平成27年7月16日に、NHK BSプレミアムの番組「コズミックフロント☆NEXT」にて「キトラ 最古の天文図のミステリー」が放送され、会期中には朝日新聞で2つの特集や連載が組まれ、展覧会開催のニュースなど多数報道されたことの効果があったと考えられる。また、明日香村の観光地や博物館・美術館にポスター、チラシを置いてもらうことも特別展の周知に効果があるということもわかった。反対に、宣伝効果が高いと思われていた駅などの公共交通機関で知ったという人の割合は1.4%だった。過去2年間におこなわれた特別展でも、公共交通機関を利用している人の割合の平均は38.4%で毎回大きな変化はない。バスよりも電車を利用している人が多く、電車利用者のうち平均59.9%が橿原神宮前駅、平均34.5%が飛鳥駅を利用している。これより、今回得られたデータをもとにして飛鳥資料館の最寄り駅となる橿原神宮前駅、飛鳥エリアの観光拠点となる飛鳥駅で、より多くの人に展示やイベントを知ってもらえる機会を増やす取り組みをおこなっていきたい。

展示評価 今回のアンケートでは、従来通りの総合的な評価に加え、どのコーナーがよかったと思うか回答してもらう欄を設けたため、展示についての詳細なデータを得ることができた。

本特別展の総合評価は、「良い」が65.6%、「まあまあ良い」が26.9%で肯定的な評価が92.5%を占めていた。

この数字は、過去2年間3回の特別展の平均77.7%と比べても高く、来館者の満足度の高さがうかがえる。

「よかったと思うコーナー」の質問に対して、特に人気だったのは「キトラ古墳と高松塚古墳」の15.6%、「キトラ古墳天文図の複製陶板」と「天文図の世界」の13.9%、「キトラ古墳天文図の最新の研究成果」の13.0%、「映像上映（キトラ 最古の天文図のミステリー）」の11.8%であった。「キトラ古墳と高松塚古墳」のコーナーには、キトラ古墳の石室複製陶板、高松塚古墳壁画の高精細パネル、両古墳の土層はぎとり、出土品、壁画ナビ（タッチパネル）が展示されていた。特にキトラ古墳の石室複製陶板は、実際の石室の大きさを体感できるので、とても楽しんで見学している人が多くみられた。「キトラ古墳天文図の複製陶板」は、露出展示で複製陶板に数分おきに解説映像を投影した。ここでは、足を止めてじっくり見学している来館者が多く見られた。これまでも常設展示ではキトラ古墳石室陶板があったが、本特別展では普段見上げている天井をのぞきこみ、解説映像とともにじっくり見るができる展示だったため好評だったと考えられる。その一方で、「支配の思想」は2.7%で最下位であった。考えられる要因は、コーナーの内容が常設展示をベースとしたものだったことである。常設で展示している水落遺跡・漏刻模型と須弥山石に加え、石神遺跡出土の土器や東北地方の土器を展示したが、特に飛鳥資料館に何度も足を運んでいる来館者には見慣れた展示内容になってしまったかもしれない。

設備面での工夫 特別展が始まってから展示室に「休憩用の椅子が欲しい」という声がいくつか見られたため、展示室内に椅子を設置した。資料館の主な客層がシニア層であることと、今までの特別展よりも展示スペースが広がったため、そのような声があったと考えられる。椅子設置後には、椅子を利用する人がたくさん見られ、アンケートにも「椅子があってよかった」という書き込みが増えた。

本特別展の映像上映は講堂でおこなっており、特別展をおこなっていた第一展示室から少し離れていたため、最初はあまり人の入りがよくなかった。そのため、映像を上映しているということが伝わり、かつ来館者の目を引く誘導パネルを用意して対応した。アンケート結果から映像上映が好評だったことがわかり、誘導パネルがう

まく機能したということもわかった。これに加え、今回の特別展では入り口や出口、順路が来館者にわかりにくいと思われる箇所にも誘導パネルを設置し、来館者にわかりやすい導線作りを心がけた。またパネルだけでなく、展示室内マップも用意し来館者が迷うことなく見学できるように試みた。多くの来館者がマップを手にとって見学している様子が見られたため、リニューアル後の常設展示でも、引き続き展示室マップを作成し設置している。また、展示品に英語の表記があったほうがよいという声もあったため、リニューアルした常設展示では、各コーナータイトルに英語表記を入れ、展示品目録は日本語と英語表記のものを作成した。

おわりに 自由コメント記入欄には、好意的なコメントがとても多く見られた。「また来たい」というコメントがいくつもあり、何度来ても飽きさせないような工夫をしていくことが重要だと思われる。その一方で「（展示や解説が）わかりやすい」と「（展示や解説が）わかりにくい」というコメント双方が見られた。今回のアンケートからはどのような点が来館者にとってわかりやすく、わかりにくいのかということはあきらかにできなかったため今後のアンケート改良の材料にしていきたい。

（小沼美結・石橋茂登）

表4 過去2年間の特別展アンケート結果（一部）

特別展名	来館者数	特別展を来館後に知った割合	総合評価が「良い」「まあまあ良い」の割合
平成26年春 いにしへの匠たち	10,597人	56.1%	76.3%
平成26年秋 はぎとり・きりとり・かたどり	9,592人	64.9%	78.5%
平成27年春 はじまりの御仏たち	10,725人	54.8%	78.2%
平成27年秋 キトラ古墳と天の科学	12,862人	9.0%	92.5%

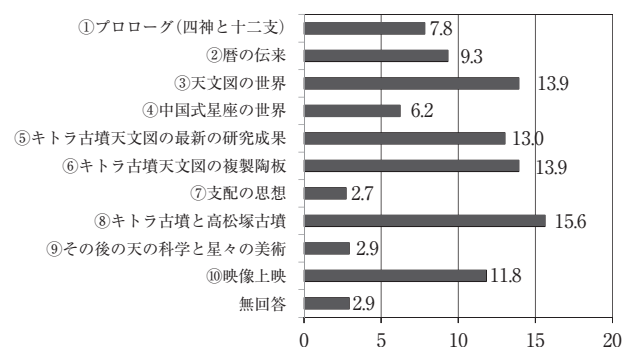


図8 質問「よかったと思う（展示）コーナー」の結果